ISSN 0918-1385

THE ROOF

郡山市立美術館ニュース ザ・ルーフ

2015.10.31 Vol.47

三木宗策《威容抱慈（坂上田村麻呂像）》（部分）
1924（大正13）年　木彫
一九四・六×八五・三×五三・五cm
当館蔵

没後70年

三木宗策の世界

木彫の正統

MIKI SOSAKU'S WORLD OF WOODEN SCULPTURE

10月31日(土)〜12月23日(水・祝)

休館日　毎週月曜日(11月23日は開館・翌日休館)
観覧料　一般 500(400)円　高・大生 300(240)円
※( )内は20名以上の団体料金。中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料。
主　催　郡山市立美術館

三木宗策《大日如来》
木彫着彩　163.0×106.0×106.0cm
西円寺蔵

三木宗策《大葉子》　1942年
木彫着彩　196.0×112.0×64.0cm
当館蔵　萩原巌氏寄贈

三木宗策は1891（明治24）年、郡山市本町七番地、現在の郡山市本町一丁目11番地に、表装を生業とする三木宗次郎とハルとの間に生まれました。兄の宗太郎は「大梁」という雅号で再興院展に入選したこともある日本画家でした。三木の二男である多聞氏は、東京国立近代美術館、文化庁文化財保護部企画官を経て、国立国際美術館長、徳島県立美術館長、東京都写真美術館長を歴任されました。特に郡山市では1982（昭和57）年から美術館基本構想懇話会委員等を務められ、郡山市立美術館建設計画当初から関わってくださっています。

三木宗策は高村光雲の弟子山本瑞雲のもとで修業し、官展や日本木彫会、正統木彫家協会を中心に活躍しました。明治後期から戦前まで、西洋からの新しい芸術が紹介される中、木彫家たちも新しい表現を模索し続け、その中でも三木は「新しい造形精神に立脚した伝統木彫の確立」（三木多聞『三木宗策の木彫』平成18年）を目指しました。

そんな彼のもとには、二本松市出身の橋本高昇（1895〜1985）、須賀川市出身の柳沼曹雲（1905〜1981）、郡山市出身の本田晶彦（1907〜1998）、伊達市出身の太田良平（1913〜1997）など、県内出身者も多く弟子として入門しました。中でも佐藤静司氏（1915年生まれ）は、三木の生地から歩いて5分もかからない駅前町に生まれ、現在も日展を中心に活躍中です。貫録のある《ガマ》は、今年百歳を迎えた佐藤氏が、修業時代に三木の作品を模刻したものです。木彫でありながら、両生類特有のヌルッとした触覚まで感じられます。佐藤氏は、三木が依頼された仏像の制作を手伝ったり、作品の着色を任されたこともあったそうです。

佐藤氏らは三木の家に他の兄弟弟子たちとともに寝泊まりして、いわゆる丁稚奉公のように修業をしていました。もともと七男三女という大家族の家に育った三木にとっては、家族に加えて何人もの弟子とともに生活することは当然のことだったようです。

今回の「三木宗策の世界展」では、三木が弟子たちにどういった指導をしていたのかが垣間見られる展示もあります。修業といっても、直接手取り足取り三木が教えたわけではなく、弟子たちは師匠と寝食を共にし、身の回りの世話をしながら、その中でいわば師匠の技術を見よう見まねで修得していったのです。

ある程度技術が備わってくると、三木は弟子たちに動物の彫刻を制作させました。《ガマ》はそんな中で佐藤氏が模刻したものなのでしょう。

模刻、というのは、ただ形をまねるだけではありません。例えば木彫の場合、年輪に対して縦に彫るのか横に彫るかで力の入れ具合も変わってきます。その時、師匠が素材としてどの木のどの部分を使い、どの鑿でどのように力を入れて彫っていく

佐藤静司《ガマ》（三木宗策作品の模刻）
木彫　12.5×21.4×25.0cm　当館蔵　佐藤静司氏寄贈

三木宗策《丹花綻ぶ》　1936年
木彫着彩　149.0×99.8×99.0cm
当館蔵　高橋和夫氏、周子氏寄贈

のか、を弟子たちは模刻によって学んでいきます。師匠の作品を模刻するというのは、技術修得においては非常に有効なことであり、伝統的な木彫の世界では重要な修業のひとつなのです。

三木宗策は6世紀の新羅で夫の死を悲しむ《大葉子（おおばこ）》や、湯上りの楊貴妃を主題にした《丹花綻（ほころ）ぶ》、戦国時代の天正遣欧少年使節である《羅馬（ローマ）少年使節》など、歴史や神話をもとにした作品のほかに、神社仏閣の尊像も多く制作しています。また、多くの記念像制作も依頼されました。残念ながらそれらは銅像だったので、戦争に使う戦艦や弾丸にする素材として、終戦近くになるとほとんどが供出されてしまいます。戦中までの日本を代表する彫刻家であったのにも関わらず、現在までなかなか顧みられる機会がなかったのはそんな理由もあるのでしょう。

三木は終戦直後の1945（昭和20）年11月、疎開していた郷里で54歳を目前に亡くなります。作家としてはまだまだこれから、という時期だったことが悔やまれます。今回の展覧会は、三木の生前も含めて初めての回顧展になります。貴重な機会をぜひお見逃しなく。

なお、常設展示室3では、「三木宗策の世界展」にあわせて「郡山の彫刻」というテーマで当館収蔵品を展示していますので、そちらもあわせてご覧ください（12月27日まで）。

（当館学芸課主任主査　菅野洋人）

三木宗策《羅馬少年使節》 1934年
木彫着彩　133.0×117.0×45.0cm
東京藝術大学蔵

関連行事

○講演会「近代の正統性　三木宗策の仏像をめぐって」
講師　小泉晋弥さん（茨城大学教授）
日時　11月23日（月・祝）午後2時～
場所　多目的スタジオ（入場無料）

○美術講座
・「近代の木彫作品を伝える」
日時　12月5日(土)　午後2時～
講師　当館学芸員
会場　講義室（入場無料）
・「三木宗策と戦前の彫刻について」
日時　12月13日(日)　午後2時～
講師　当館学芸員
会場　講義室（入場無料）

○ギャラリートーク
日時　11月14日(土)、28日(土)　午前11時～
講師　当館学芸員
会場　企画展示室（要観覧券）

○映画会
・**「楊貴妃」**（1955年　98分）
日時　11月22日(日)　午後2時～
会場　多目的スタジオ（入場無料）
・**「アジアの瞳」**（1997年　90分）
日時　12月20日(日)　午後2時～
会場　多目的スタジオ（入場無料）

○如宝寺欄間彫刻公開
日時　11月7日(土)、8日(日)
午後2時～午後4時
会場　如宝寺（郡山市堂前町4－24）

東日本大震災復興支援　サントリー東北サンさんプロジェクト

サントリー美術館所蔵品展
夢とあこがれの形

この展覧会は、サントリーグループの東日本大震災復興支援活動「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として開催されたもので、展覧会初日には、開会式と内覧会が行われました。会期中は、被災地の小中学生の鑑賞活動もありました。

今回のサントリー美術館のコレクション展は「生活の中の美」という基準で構成され、市井の人々の生活の様子が描かれている作品が多く展示されました。特にその内容を知っていただくために、デジタル展示も行いました。

《洛中洛外図屏風》には、祇園祭の様子や、清水寺などたくさんの名所が描かれており、デジタル展示の画面をタッチすればそこが拡大され解説と共にその内容を知ることができました。また、《鼠草子絵巻（ねずみのそうしえまき）》もデジタル展示によって、描き込まれていたセリフの部分を現代語訳で読むことができました。鼠の主人公が、人間の姫と結婚したいと願うという奇想天外な物語のおもしろさをさらに楽しめました。

会　　期：平成27年9月5日(土)～10月18日(日)
休 館 日：毎週月曜日（9月21日（月・祝）、10月12日（月・祝）は開館、9月24日(木)、10月13日(火)休館）
主　　催：郡山市立美術館・サントリー美術館
特別協賛：サントリーホールディングス株式会社
機材提供：シャープ株式会社
企画協力：大日本印刷　ＬＤＭＬプロジェクト

オープニングのテープカット（平成27年9月5日）
左から勝田哲司氏（公益財団法人サントリー芸術財団専務理事・サントリー美術館支配人）、大河内勇希氏（一般公募代表）、福本ともみ氏（サントリーホールディングス株式会社執行役員・コーポレートコミュニケーション本部副本部長）、品川萬里（郡山市長）、小野義明（郡山市教育委員会教育長）、佐治ゆかり（当館館長）

ルーシー・リー展

Lucie Rie

没後20年

平成28年1月16日(土)～3月21日(月)

休館日　毎週月曜日（3月21日は開館）

観覧料　一般 800(640)円
高・大生500(400)円
※（ ）内は20名以上の団体料金。中学生以下、65歳以上、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

主　催　郡山市立美術館
　　日本経済新聞社
後　援　オーストリア大使館
　　ブリティッシュ・カウンシル
協　賛　大伸社
協　力　オーストリア航空
　　全日本空輸
　　ルフトハンザ カーゴ AG

ルーシー・リーのポートレイト
Lucie Rie Archive, Sainsbury Centre for Visual Arts, University of East Anglia, UK/　Photo：Pete Huggins

ルーシー・リー（1902～1995）は、ウィーンの裕福な家庭に生まれ、イギリスのロンドンで活躍した女性陶芸家です。

彼女の作品には、独特なかたち、装飾が多く見られます。そしてその二つの要素が分離することはなく、一体となって成立している造形が印象的です。それにはリーの独自の手法が大きく影響しています。なかでも代表的なのは、焼成前の乾いた土に針で線模様を描き、そこに色土や釉を塗り込むという技法です。こうすることで、筆で描くよりもシャープな線文を作り出すことができます。この技法によってできた文様は、《ピンク線文鉢》に見られるように、薄く、緊張感のあるフォルムと調和して融合し、作品のかたちをより魅力的に見せているのです。

また、《スパイラル文花器》のような螺旋（らせん）模様の花器も、彼女の特徴的な作品のひとつです。これは、二種類以上の粘土が轆轤（ろくろ）の回転によって混じり合い、器のなかに螺旋模様が描かれるというものです。螺旋模様がゆるやかに昇りながらたどりつく口縁部は、さらにその先を思わせるように曲線を描いています。模様とかたちが見事に響きあい、それぞれの効果が最大限に引き出されている作品です。

《スパイラル文花器》1980年頃　個人蔵
Estate of the artist　撮影：大屋孝雄

《ピンク線文鉢》1980年頃　個人蔵　Estate of the artist
撮影：上野則宏

リーの器の魅力のひとつとして、やわらかな色彩も挙げられるでしょう。素朴でありながら洗練された彼女の作品は、緻密な計算のもとに制作されているにも関わらず、手作りの優しさと馴染みやすさがあります。それには、器の色も大きく関わっているのかもしれません。彼女のつくり出す色彩は、どれもあたたかみを持っています。これらの色彩は、何度も釉薬の実験を繰り返し、リーが独自に調合して作ったもので、すべて「釉薬ノート」に記録してあります。このノートによってイメージどおりの色を再現でき、器にぴったりの色彩をまとわせることができたのです。

本展は、ルーシー・リーの作品約200点で彼女の足跡をたどり、その魅力に迫ろうとするものです。また、今回展示される作品の大半が日本では初公開となります。彼女の陶芸への真摯な姿勢が生み出した、表情豊かな作品をどうぞお楽しみください。

（当館学芸員　新田量子）

関連行事

○講演会「モダニズムの陶芸家、ルーシー・リーの造形美」
講師　**金子賢治さん（茨城県陶芸美術館長）**
日時　平成28年1月30日(土)　午後2時～
場所　多目的スタジオ（入場無料）

○美術講座「色が奏でる器たち」
日時　平成28年2月28日(日)　午後2時～
講師　当館学芸員
会場　講義室（入場無料）

○ギャラリートーク
日時　平成28年2月13日(土)、27日(土)
　　午後2時～
講師　当館学芸員
会場　企画展示室（要観覧券）

○映画会「菩提樹」（1956年　106分　字幕）
日時　平成28年2月20日(土)　午後2時～
会場　多目的スタジオ（入場無料）

※他にワークショップも予定しております。詳しくは館内チラシ、ホームページ等をご覧ください。

美術館は豊かな学びの宝庫

星　博人（福島県教育センター指導主事）

昨年度から、郡山市立美術館との共催で、小・中・高等学校の教師を対象とした美術館における鑑賞の指導法講座を実施してきました。そこでは、アートカードなどの補助教材を使ったアートゲームや、数人のグループで対話しながら鑑賞をすすめる対話による鑑賞など様々なワークショップを通して、鑑賞における学びについて検証してきました。その結果、鑑賞をクリエイティブな活動にすることにより、美術館は豊かな創造の場となることを受講した教師とともに実感することができました。

現代の作品解釈に、作品には一つの動かぬ意味が存在し、それを読み解くのではなく、見る人ごとに生み出される多様な解釈があるという考え方があります。つまり、鑑賞する作品についての意味や価値は、鑑賞する人の数だけ存在するという考え方です。そのような考え方を基にすると、美術鑑賞がよりクリエイティブな活動となるのです。

子どもたちの将来は、社会や職業の在り方そのものが大きく変化する可能性があるといわれています。そのためにＯＥＣＤやユネスコなどが新しい時代に必要となる資質・能力の育成に関した取組を行っています。これらの取組に共通する視点は、社会や生活の中で基礎的な知識・技能を活用しながら自ら課題を発見すること、そして、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現すること、というものです。

講座で行った鑑賞活動の学びでは、主にどのような資質や能力が育成されたのか、次のように整理することができました。

○　他者との違いを自覚することによって自分の意見に自信をもつ。
○　他者との考えを共有し合い、評価し合おうとする態度が育つ。
○　発想や洞察を通して、創造的に思考するスキルが習得される。
○　対話や発表を通して、コミュニケーション・スキルが養われる。
○　考えや情報を関連付け、比較し、対比することを通して問題解決のスキルが習得される。
○　作品についての知識を得る。

これらは、新しい時代に必要となる資質・能力に通ずるものといえます。課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ創造の場、そのような視点から美術館は豊かな学びの宝庫であるといえます。

急速に変化する社会を生き抜く力を育成することは、何も子どもたちだけに求められることではありません。美術館を教養としての生涯学習の場ととらえるだけではなく、クリエイティブな鑑賞活動による発想力や想像力を鍛える創造の場ととらえることは、実は私たち大人に求められることなのではないでしょうか。

「先生のための図画工作・美術鑑賞指導法講座」
平成27年7月11日（土）
講師　星博人さん
会場　講義室・常設展示室

鳥竿（ソッテ）とうなり木

関根秀樹（和光大学講師、古代技術・民族文化史研究家）

「美術館でワークショップ」というと、母や同級生は「うそだっぺ？！」。図工の成績は「2」。水郡線で通った安積高校でも、「死んでも美術は無理！」と選択した音楽は10段階評価で「1」だった。それが今、道具や工作や民族楽器の本を書いたり、大学でものづくりや民族音楽の講義をしたり、NHKの音楽番組で坂本龍一と共演もし、多摩美術大の「絵具実習」やら桑沢デザイン研究所プロダクトデザインの授業を担当しているのだから、世の中わからない。

高校では物理部と茶道部だったが和光大学では古典文学を専攻。自由に学べる環境で別の大学や別の学科のおもしろい教授たちと出会い、いくつもの分野を「広く深く」往還することに。工業デザイナー秋岡芳夫先生の縁で仙台の大学（工学部）に勤めた20代の後半、宮城県美術館に招かれ、初めて美術館でのワークショップ「音・楽」をやった。木や竹や土、石、金属、紙などさまざまな素材で古代楽器や民族楽器、サウンドオブジェを作り、仙台市制100年記念コンサートでは古代楽器考証復原と演奏指導も。その後、福島県立美術館をはじめ、練馬、目黒、横浜、長崎、宮崎、郡山その他各地の美術館でさまざまなワークショップをするようになった。

今夏、7月には木の枝で韓国の民俗造形ソッテ（솟대、sotdae）に想を得た鳥の野外彫刻を作った。ソッテは災厄除けや豊作を願って村の入口の神木やチャンスン（長柱。道祖神）の傍らに立てられることが多い。日本や東南アジアの「鳥居」とも関係し、弥生時代の遺跡からそっくりな鳥の造形も出土している。

韓国でも多くの民俗文化が衰退し、2000年頃には東京の在日韓国人のイベントで日本人のぼくが作り方を指導するなんて不思議な現象も起きたが、最近は民族主義の隆盛で伝統文化の復興が叫ばれ、ソウルのイベント会場で超小型ソッテ作りの体験コーナーも見かける。

8月は2万年以上も前から世界中で振り回されてきた古代の呪的音具「うなり木」と、アジアの凧（たこ）の弓うなりから発展したサウンドオブジェ「スピリッツキャッチャー」を制作。絵や彫刻だけがアートではない。アジアの風土と歴史の中から新しい「美」は見えてくる。

ワークショップ「民族楽器とサウンドオブジェを作ろう」

ワークショップ
「野外彫刻を作ろう」
平成27年7月18日（土）

「民族楽器とサウンドオブジェを作ろう」
平成27年8月9日（日）
講師：関根秀樹さん
（和光大学講師・民俗文化史研究家）
会場：庭、講義室、創作スタジオ、多目的スタジオ

Report

ワークショップ
「牙彫体験講座　象牙を彫る、磨く、染める」

平成27年6月7日(日)、14日(日)
講師：前田 中さん
（根付師、国際根付彫刻会役員）
会場：創作スタジオ

企画展「超絶技巧！明治工芸の粋」関連ワークショップ。現在では非常に貴重となった象牙の小片を使い、牙彫を体験するワークショップを実施しました。道具の使い方から、磨き、染めまで挑戦。携帯ストラップなど個性的な作品が出来上がりました。

講演会「光と色が放つイメージ」

平成27年7月4日(土)
講師：上羽陽子さん
（国立民族学博物館准教授）
会場：多目的スタジオ
共催：国立民族学博物館友の会

企画展「イメージの力―国立民族学博物館コレクションにさぐる」にあわせて、みんぱくの調査・研究・収集について、特にインドを中心にした染織文化の事例をご紹介いただきました。講演終了後も実際の資料をもとに参加者との質疑応答が続きました。

ワークショップ
「季節を染める－葛－」

平成27年7月12日(日)
講師：佐治ゆかり（当館館長）
会場：創作スタジオ

連続企画の当館館長による染色のワークショップ。今回は夏草を代表する葛を材料にしました。レクチャーの後で銅とミョウバンで媒染し、趣の異なる二種類の絹製スカーフを染めました。見慣れた夏草から美しい緑が得られることに、皆さん驚いていました。

第14回風土記の丘の美術展
郡山市内の小学生による作品展

平成27年7月20日(月･祝)～8月23日(日)
会場：展示ロビー
主催：郡山市立美術館
郡山市小学校造形教育研究会

郡山市内の小学生が授業で制作した作品を、地域ごとに週替わりで展示しました。子どもたちの素直な気持ちが表現された印象深い作品が数多く出品されました。

夏休み公開ワークショップ
第10回　風土記の丘発　図工＆美術の時間へようこそ！

平成27年8月1日(土)
会場：多目的スタジオ
講師：郡山市内の小中学校の先生方

このワークショップは、様々なコーナーで図工や美術の授業内容を体験できるもので、毎年夏休みの期間に開催しています。今年は、「アートストーン」「カラフルレストラン」「お面でへんしん」「動物組み木」「ビー玉コースター」といった、楽しみながら図工や美術に触れることのできるコーナーのほか、射的や魚つり、こま回しなどのゲームも用意され、子どもたちは自由な発想で熱心に手を動かしたり、ゲームで盛り上がったりと、とても楽しんでくれているようでした。図工や美術に親しみながら、これからも創造の楽しさを感じていっていただきたいですね。

講演会
「イメージの力
みんぱくのコレクションが語るもの」

講師：吉田憲司さん
（国立民族学博物館副館長）
平成27年8月8日(土)
会場：多目的スタジオ
共催：国立民族学博物館友の会

企画展「イメージの力―国立民族学博物館コレクションにさぐる」の開催趣旨や出品資料について具体的な例を挙げながら、人間が生み出してきたイメージの創り方や受け止め方の共通性と普遍性についてお話しいただきました。

講演会「美を結ぶ、美をひらく」

講師：石田佳也さん
（サントリー美術館学芸部長）
平成27年10月4日(日)
会場：多目的スタジオ

企画展「サントリー美術館所蔵品展」関連事業。「生活の中の美」を基本理念として活動し、現在は「美を結ぶ。美をひらく。」をミュージアムメッセージに掲げて活動している同館の成り立ちからコレクション形成の過程、そしてその魅力をお話しいただきました。

ワークショップ
「誰でもカンタン！
キラキラ☆金箔画に挑戦！」

講師：鴻崎正武さん
（画家、東北芸術工科大学准教授）
平成27年10月11日(日)、12日(月･祝)
会場：創作スタジオ

多彩な金箔技法を用いての絵画制作。普通の息だけでもふわりと動いてしまう非常に薄い金箔の扱いに四苦八苦しながらも、皆さんは砂子などで凹凸のマチエールを施し、その上に自分の顔や花、果物などシンプルなモチーフを油彩で描きました。

常設展示

■～平成27年12月27日(日)
展示室1　イギリスの美術　風景画と肖像画
展示室2　日本油彩画の表現
展示室3　郡山の彫刻
展示室4　版芸術と技法／ガラスに刻む
■平成28年1月16日(土)～
展示室1　小特集：ビアズリーの世界
展示室2　静物を描く
展示室3　戦中戦後のリアリズム
展示室4　イギリス現代版画／イギリスの工芸

第8回風土記の空

郡山市内の中学校美術部・選択美術による作品展

会場＝ロビー(無料)
会期＝11月10日(火)～12月23日(水・祝)

郡山市内の中学校美術部や選択美術で製作した作品を展示します。

個性にあふれた絵や立体作品が並びます。中学生たちの作品にこめた熱い思いを感じとってください。(写真は昨年の展示作業風景)

参加者募集 ワークショップ「季節を染める ― 椚(くぬぎ) ―」

染色についてのレクチャーと染めの体験を行います。今回は、椚などを使ってストールを染めます。

講師：佐治ゆかり(当館館長)
日時：12月6日(日)　午前10時～午後3時半
(終了時間は予定)
会場：創作スタジオ
定員：15名
材料費：4000円
申込方法：11月23日(祝・月)まで電話でお申し込みください。応募多数の場合抽選となります。

平成27年度〈アート・テーク〉

「アートに触れる」「アートを掴む」「アートから捉える」。今年度は異界をテーマに〈アート・テーク〉を実施しています。異界を通して自然と人間の関係を探りつつ、日常の生活に垣間見られる異界と人間との関わりを考えていきます。

報告

第1回「妖怪文化の伝統と創造 絵巻から妖怪ウォッチまで」

特別講師：小松和彦さん
(文化人類学者・民俗学者・国際日本文化研究センター所長)

日時：5月30日(土)　午後2時から
会場：多目的スタジオ

妖怪の歴史をひもとき、日本人の想像力と精神性を考え、その豊かな妖怪の世界を明らかにしました。

第2回「異界を語る琵琶の音色」

特別講師：塩高和之さん(琵琶奏者)

日時：7月26日(日)　午後2時から
会場：多目的スタジオ

奈良時代から既に日本で愛されてきた楽器である琵琶について、演奏を交えながらその魅力と特徴についてお話しいただきました。

第3回「衣と〈後ろの世界〉」

講師：佐治ゆかり(当館館長)
日時：9月26日(土)　午後2時から
会場：講義室

＜アート・テーク＞今後の予定

第5回「見えないものを見せるための いくつかの仕掛け」

講師：京極夏彦さん(小説家)
日時：平成28年1月23日(土)　午後2時から
会場：多目的スタジオ
申込方法：①～④を記入の上、ハガキ、ファックス、Eメール(bijutsukan@city.koriyama.fukushima.jp)のいずれかでお申し込みください。
締切：平成27年12月27日(日)必着。
①参加者全員の氏名・性別・年齢(一件につき2名まで)
②郵便番号・住所(代表者)
③電話番号及びFAX番号(代表者)
④友の会会員の方は会員番号
※応募者多数の場合は抽選。

撮影：但馬一憲

第6回「境界の造形」

講師：佐治ゆかり(当館館長)
日時：平成28年3月26日(土)　午後2時から
会場：講義室

TOPICS

美術館のカフェ　juju 130 cafe
(ジュジュ　イチサンマル　カフェ)

【期間限定】抹茶と小豆のパンケーキ
(単品590円・ドリンクセット970円)

カフェで大好評のデザートメニューから
和菓子のようなパンケーキが新登場。
抹茶と小豆を生地に練り込み焼き上げているので
風味豊かな香りが口いっぱいに広がります。
トッピングの抹茶アイスと黒蜜ソースをかけてお召し上がりください。

営業時間　11:00-17:00　電話　024-942-2250

年末年始と臨時休館のお知らせ

平成27年12月28日(月)から平成28年1月15日(金)まで、館内消毒及び年末年始のため、全館休館となります。

郡山市立美術館
Koriyama City Museum of Art
〒963-0666　福島県郡山市安原町字大谷地130-2
電話 024-956-2200　ファックス 024-956-2350
http://www.city.koriyama.fukushima.jp/bijyutukan/

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C011278
VEGETABLE OIL INK
紙へリサイクル可
この印刷物は、適切に育まれた森から生まれたFSC®認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用しています。